



東京府に於ける橋梁工事概要

來 島 良 亮

一 管内の河川

管内を流貫する河川の主なものは、多摩川、荒川及び江戸川の三川とす。多摩川は遠く源を山梨縣に發し、管内の中央を縦貫東流して東京灣に注ぐ。河口羽田より矢野口渡に至る凡そ三十料は、神奈川縣との境界をなし、羽田、矢野口渡の中間丸子の渡より上流拜島福生に至る凡そ四十料の間は、所謂多摩川砂利の産地にして、無限の寶庫を藏

す。是より上流に至るに従ひ、玉石轉石を増し、河口を登る六十料青梅町附近に至つて、溪谷漸く深く山岳迫り、是より上流二十料氷川に至る間は、所謂奥多摩の景勝地を爲す。拜島に於て合流する秋川の中流には、五日市町を中心とする産業拓け、拜島の下流十料に於て合流する淺川の中流には、八王子市發展せり。

荒川は東京市の東端に近く南流する管内第一の主要河川なるは、茲に論ずる迄もなし。市郡界をなす白鬚橋より上

流は、流心著しく屈折して略東流となり、貳拾籽の間埼玉縣との境界を爲す。

江戸川は府の東端に在りて貳拾籽の間、千葉縣との境界を爲し、南流して東京灣に注ぐ。

舊荒川即ち隅田川と江戸川とに平行して、略々其中間を行く荒川放水路は、荒川の上流岩淵の水門を起點とせる長さ凡そ貳拾五籽、幅四百五十米より六百米に至る管内第一の大河川にして、三千萬圓の巨費を投じ拾數年の長期に亘り、國の事業として大正の末期に竣工せる一大水路なり。

尙江戸川及荒川の中間を流下する中川、中川及放水路を連絡する綾瀬川及花畑運河あり。何れも近年改修を完了せるものにして、東京府東部に於ける産業開發は、是によりて著しく増大せしめらるゝことを俟たず。

此外、呑川、目黒川、澁谷川、神田川、石神井川等の小河川あり。何れも目下改修中に屬す。

二 管内の橋梁數及事業概況

國道及府縣道に屬する橋梁數は、第一號表に示せる如く、國道に於ては八十五橋、府縣道に於ては千五十三橋にして、徑間六十米以上の橋梁は、國道府縣道を通じて貳拾七橋、貳百米以上の橋梁は拾貳橋を算す。

第二號表に見る如く、是等橋梁中永久的構造に改築成れるもの、國道に於て四十三、府縣道に於て五百三橋、未改築に屬するもの、國道に於て四十二橋、府縣道に於て五百五十橋にして、即ち現在は數に於て改築其半ばに在り。但し是等改築濟の橋梁は、過去數年間に竣功せるもの大部分を占め、大正十年以前は橋梁工事として見るべきものなし。

文化的施設の充實に伴ひ、近年益々繁激を加へつゝある交通運輸に順應すべく、道路橋梁の擴張今や異常の勢を以て遂行されつゝあるは、萬人等しく認むる處にして、府に於ける道路及橋梁の改善増設も尙將來に待つもの亦多々あり。

特に都市計畫事業として執行すべき道路橋梁の事業は、

最近尠大なる内容を有するに至り、是を橋梁工事に就いて見るも、第一期及第二期都市計畫事業を通じて、壹千五百萬圓に達す。尙今後、計畫より事業に移すべき豫算を合すれば、蓋し莫大なる額に達すべし。

第一期及第二期都市計畫事業に於ける橋梁工事の平均年額は、百七十萬圓にして、更に其他の國府縣道橋梁新築改築繼續工事費年額平均六十萬圓、道路改修に伴ふ橋梁新築費年額十萬圓及一年限橋梁架換及維持費貳拾萬圓を合算すれば、年額貳百六拾萬圓の事業費となる。

既往竣功せる主なる橋梁及施工中又は着手すべき主なる橋梁を列記すれば、第四號表、第五號表の如し。

尙管内に於ける道路と橋梁との比較を參考として第參號に表示せり。

三 橋梁工事執行機關と將來の施設

東京府に於ける橋梁の施設漸く見るべきものあるに至りしは、大正十年以後にして、千住新橋を始めとして、二子

橋、千住大橋、日野橋、新荒川大橋及最近竣功せる白鬚橋等の大橋梁を實現するに至れり。

千住大橋及白鬚橋は、從來木橋にして、何れも幅員狹隘なりしため愈激に發展し來れる重量荷物の高速度運輸の目的に沿はざるのみならず、經年の結果危險に頻し、其架換は寸時も忽諸に附する能はざるものあり、其他の橋梁は、何れも從來渡船場なりしを以て其不便推して知るべく、産業の發展を阻止せるもの蓋し尠からざりしが、幸にして銳意是が開發に巨費を惜まず、茲に永久的耐震的大橋梁實現し、幾多の小橋梁の改築と道路の改修と相俟つて、今や四國道を始め主要幹線道路に於ける交通運輸を圓滑ならしむるを得たり、今尙渡船を以て用を便じつゝあるもの左表の如し。

渡船場調

(昭和六年十二月調)

河川名	府縣道分	其他	計	摘	要
多摩川	一一	一	一二	内神奈川縣管理	四
荒川	三	五	八	内埼玉縣管理	一

江戸川	二	一	二
中川	三	四	七
秋川	二	一	二
小名木川	一	二	二
新川	一	一	一
合計	二一	一三	三四

然れども帝都を中心とする文化の發展は、停止する處を知らず、第一期都市計畫事業は、更に第二期第三期の事業を促進して止まざる現状なり。

顧るに大正十年前に於ける土木事業は、内務部に從屬せる土木課たゞ一課を以て處理し得たりしが、昭和三年土木部設けられ、更に昭和五年一月分課規定を改め、道路課、橋梁課、河港課及經理課の四分課を置き、之に従事する職員其數六百の多數に達せり。

大正十一年、始めて土木課の一係に、囑託一名と専任技師二名と數名の技手を増員せるも、千住新橋以後打續く大橋梁

の工事監督と其他の橋梁の設計及各出張所、改修事務所に於て爲せる設計の審査に追はれて餘力なき状態なりしを、新に橋梁課を設置し稍々陣容を整へ、今や設計資料は蓄積し、橋梁技術者は、其經驗と訓練を増し、從來に比し著しく其能力を發揮し來れりと雖も、其消化能力は猶前述せる橋梁工事年割額二百六拾萬の半ばに過ぎざる如し。

即ち現在橋梁課員は課長(技師)以下専任技師二名技師九名工手拾壹名傭人五名書記一名にして、定員の關係もあり直ちに増員は極めて困難なるを以て、現在の橋梁課を以てしては、大小總ての橋梁に涉り、徹底的に其設計と施工監督を全ふる能はざる關係上、規模大にして設計複雑、工事困難なる橋梁を選択して、直接是が設計及工事監督の任に當らしめ、他の小橋梁は各出張所及改修事務所をして夫々設計及施工に當らしめつゝある状態なりとす。然るに近く荒川放水路を始めとし幾多の大橋梁架設の時期到來し、年額貳百六十萬以上に及ぶ巨額の工費を消化して遺憾なからしむる爲には、最善なる計畫と優秀なる設計及完全なる

施工に依つて以て、適切敏速能く機宜に適せしむるを必要とし、更に一段橋梁課の充實を急務と考へ居る次第なり。

四 本府施工に係る橋梁二三の紹介

一 千住大橋

本橋は陸羽街道(四號國道)荒川に架設せられたるものにして、橋長九十二米餘、有効幅員二十二米、一徑間の繫拱橋にして、結構に費す鋼材噸數約千六百噸なり。

橋臺は鐵筋コンクリート造にして、長六十尺の地形杭基礎となす。工費七拾萬餘是に取付道路工費を合算すれば、九十四萬九千餘圓にして、大正拾四年起工、昭和二年竣功す。

一 新荒川大橋

本橋は帝都の北門、岩槻街道荒川に架設せられたるものにして、橋長六百二十餘米、幅員七米半なり。徑間六拾貳米餘の「ワールン」型樑橋三連、徑間二十二米の桁橋十六連及徑間四十二米餘の拱橋一連より成り、之に要せし鋼材一千百噸なり。橋臺及橋脚は何れも鐵筋混凝土造にして、

特に結構橋の四橋脚は、長三拾米の井筒基礎を選び、他は何れも長四十尺乃至六十尺の杭打地形とす。

工費七十四萬二千圓、大正拾五年起工し、昭和三年竣功す。

一 白壁橋

本橋は都市計畫道路環狀線に當り、荒川に架設せらる。橋長百七十米、幅員二十二米、三徑間より成る繫拱橋にして、所要鋼材千九百噸なり。

橋臺は二箇の井筒地形杭基礎を連絡して一體とせる鐵筋混凝土造にして、二橋脚は何れも約三十米の井筒を基礎とせる鐵筋混凝土造なり。

工費壹百拾萬圓を要し、昭和三年起工し、同六年竣功せり。

一 東京府管内に於ける橋長別による橋梁數表

(昭和六年十一月調)

郡名	出張所名	國道に屬する橋梁の長別(單位米)				府縣道に屬する橋梁の長別(單位米)				合計
		200以上	100以上	50以上	50以下	200以上	100以上	50以上	50以下	

荏原	品川	5	2	1	1	7	86	8	1	95	102	
豐多摩	澁橋	4	1	1	1	5	62	1	1	63	68	
北豐島	板橋	6	1	1	1	9	93	2	2	101	110	
南足立	千住	6	1	1	1	7	37	2	1	40	47	
南葛飾	小松川	17	3	2	1	24	175	15	2	200	224	
南多摩	八王子	25	2	1	1	28	170	3	5	180	208	
北多摩	府中	5	1	1	1	5	102	5	1	107	112	
西多摩	青梅	1	1	1	1	2	33	25	7	26	267	
合計		68	8	3	4	85	958	61	16	8	101,053	1,138

二 東京府管内に於ける橋種別による橋梁數表

(昭和六年十一月調)

郡名	出張所名	國道に屬する橋梁の種別				府縣道に屬する橋梁の種別				合計
		鐵筋コンク	鋼橋	木橋	石橋其他	鐵筋コンク	鋼橋	木橋	石橋其他	

荏原	品川	6	1	1	1	34	29	14	18	95	102
豐多摩	澁橋	1	5	1	1	34	10	11	8	63	68
北豐島	板橋	1	1	2	1	44	13	10	34	101	110
南足立	千住	4	1	1	1	11	3	5	21	40	47
合計		12	8	5	4	123	55	40	50	260	277

南葛飾	小松川	六	二一〇	六二四	四四	三五	七七	四四	二〇〇	二二四
南多摩	八王子	一〇	三一三	二二八	四六	一九	一〇三	一二	一八〇	二〇八
北多摩	府中	二	一一	二五	四三	一四	一一	三九	一〇七	一一二
西多摩	青梅	一	一	一	一〇三	二一	一四〇	三	二六七	二六七
計		三四	九二六	一六八五	三五九	一四四	三七一	一七九	一〇五三	一、一三八
合 計		△四三	×四二	八五	△五〇三	×五五〇	一、〇五三	×△五九四	二	六

三 管内に於ける道路と橋梁の比較

(昭和六年四月調)

郡名	出張所名	道 (國府縣道)				橋 梁 (國府縣道)				道路橋梁百分比	
		延 長	面 積	平均道路幅	延 長	面 積	平均橋梁幅	延 長	面 積		
荏原	品川	一九一、九〇〇 ^米	一、二八〇、七〇〇 ^{平方米}	六、七	一、二〇〇 ^米	一、一六〇〇	九、七〇	〇、六	〇、九		
豐多摩	澁橋	一四五、二〇〇	一、一一九、六〇〇	七、七	四〇〇	三、二〇〇	八、〇〇	〇、三	〇、三		
北豐島	板橋	一七三、八〇〇	一、一六六、九〇〇	六、七	二、四〇〇	一八、三〇〇	七、六	一、四	一、六		
南足立	千住	八四、四〇〇	四六〇、四〇〇	五、五	一、三〇〇	一一、五〇〇	八、八	一、五	二、五		
南葛飾	小松川	一五七、九〇〇	八三三、九〇〇	五、三	五、二〇〇	三六、一〇〇	七、〇	三、三	四、三		
南多摩	八王子	二五五、八〇〇	一、一一八、八〇〇	四、四	二、五〇〇	一四、五〇〇	五、八	一、〇	一、三		
北多摩	府中	二六〇、七〇〇	一、四五二、〇〇〇	五、六	六〇〇	三、二〇〇	五、三	〇、二	〇、二		
西多摩	青梅	二八〇、二〇〇	一、一五八、四〇〇	四、一	三、五〇〇	一四、八〇〇	四、二	一、三	一、三		
合 計		一、五四九、九〇〇	八、五九〇、七〇〇	六、二	一七、一〇〇	一一三、二〇〇	六、六	一、一	一、三		

四 既往拾年間に竣功せる主なる橋梁表

(昭和六年十一月現在)

橋名	種別	郡	町村	路線名	河川名	延長	幅員	工費	施行年度
多摩橋	鐵筋 混凝土桁	西多摩	草花	府縣道第四號 東京五日市線	多摩川	一一、三	三、〇	一二六、〇七四	八一—一三
二子橋	鋼桁	荏原	玉川	府縣道第一號 東京厚木線	同	二四二、〇	五、〇	三三七、四〇九	一〇—一四
平井橋	鐵筋 混凝土桁	南葛飾	吾嬬	府縣道第七號 吾嬬行德線	中川	三二、七	三、〇	六六、三七六	一一—一四
豐島橋	鋼工 鐵筋混凝土	北豐島	王子	府縣道第四九號 王子草加線	荒川	五六、七	三、〇	六五、六〇六	一一—一四
小松川小橋	木橋	南葛飾	松江	七號國道	中川	一六八、八	三、五	七九、一〇三	六一—一
小松川橋	同	同	小松川	同	荒川放水路	二七五、四	三、五	三〇七、五三九	七一—一
四ツ木小橋	同	同	本田	府縣道第二八號 淺草松戸線	綾瀬川	二九、四	三、〇	三六、二五三	六一—〇
四ツ木橋	同	同	吾嬬 本田	同	荒川放水路	二四七、三	三、〇	二五六、六一二	七一—二
西新井橋	同	南足立	千住	府縣道第四八號 千住川口線	同	二四七、三	三、〇	二二九、五八四	六一—〇
堀切小橋	同	南葛飾	南綾瀬	府縣道第二八號 淺草松戸線	綾瀬川	二九、四	三、〇	四八、六〇六	七一—〇
堀切橋	同	同	隅田 南綾瀬	同	荒川放水路	二四一、四	三、〇	二七八、九六五	七一—三
上平井橋	鐵筋 混凝土橋	南葛飾	南綾瀬	府縣道第一三〇號 南千住行德線	中川	六二、五	二、五	四五、一二五	九—一三
江北橋	木橋	南足立	江北	府縣道第四九號 王子草加線	荒川放水路	二四二、四	四、〇	二一〇、九三八	九—一三

工費 施行年度
 (本數字は大正算用)
 數字は昭和を示す)

紹介

船堀橋	同	南葛飾	小松川	府縣道第三一號	同	二八五、五	三、〇	二一八、七二二	九一—二
船堀小橋	同	同	松江	同	新中川	七七、五	三、〇	六二、六五二	九一—二
日野橋	鋼桁、鐵筋 混凝土橋	南多摩	立川	八號 國道	多摩川	二〇、一、七	四、〇	三七九、四六七	七—二
中川大橋	鋼桁、鐵筋 混凝土橋	南葛飾	小松川	府縣道第三一號 東京浦安線	中川	七七、五	二、五	九一、五六九	一四—一五
市川橋	鋼結構橋	南葛飾	小松川	七號 國道	江戸川	二一四、〇	四、〇	四五、八八六	一一—二
新荒川大橋	鋼結構及鋼 拱及鋼桁	北豐島	岩淵	府縣道第六號 東京川口線	荒川	四六二、九	四、〇	七四一、八五六	一〇—三
千住新橋	鋼桁橋	南足立	梅島	四號 國道	荒川放水路	二五一、五	四、〇	一、二九一、七五〇	九—一四
千住大橋	鋼結構拱橋	同	千住	同	荒川	五〇、八	一一、〇	九四九、一七五	一五—二
六郷橋	鋼結構拱及 鋼桁橋	荏奈川縣	六郷	一號 國道	多摩川	二四五、〇	九、〇	四九九、九九九	一二—一四
葛西橋及 葛西小橋	鋼工桁鐵筋 混凝土橋	南葛飾	砂町	府縣道第一二四號 砂町浦安線	荒川放水路 及中川	三〇二、二	三、〇	三七八、四七五	一五—三
葛飾橋	鋼結構橋	南葛飾	金町	六號 國道	江戸川	一八六、九	四、〇	四五六、五〇二	一〇—三
東海橋	鐵筋 凝土橋	荏原	品川	一號 國道	目黒川	一四、三	一一、〇	一〇九、六九六	一五—一五
大和田橋	鋼工桁橋	南多摩	八王子 小宮	八號 國道	淺川	六五、七	四、三	三九、六三二	一五—二
淺川橋	同	同	同	府縣道第一二號 八王子川越線	淺川	六四、四	四、〇	四七、四九三	四—五
東秋川橋	同	同	加秋留	府縣道第二四四號 福生淺川線	秋川	六四、四	三、〇	二八、五八五	五—六

御岳橋	鋼拱橋	西多摩三田	府縣道第二一 號御岳二俣尾停 車場線	多摩川	三八、七	二、八	二五、五三八	4 4
境川橋	鋼桁橋	南葛飾砂町	府縣道第一二四 號砂町浦安線	東京運河	一八、二	一一、〇	一〇一、二四八	4 5
計								
都市計劃事業として施行せる橋梁					七、九六二、四三五			

福神橋	鋼桁橋	南葛飾吾嬬	府縣道第三七號 砂町吾嬬線	北十間川	一一、〇	一一、〇	七七、二二三	2 3
五ノ橋	同	同龜戸	同	堅川	一七、〇	一一、〇	一一〇、八〇三	一五 2
居木橋	鐵筋混 凝土橋	荏原品川	府縣道第五八號 駒澤品川線	目黒川	一五、〇	一一、〇	八九、〇六七	4 5
大崎橋	鋼桁橋	荏原大崎	府縣道第一九號 下大崎川和線	目黒川	一五、〇	一一、〇	一五八、九五六	2 3
白鬚橋	鋼結構拱橋	南葛飾寺島	府縣道第三六號 寺島田端線	荒川	九一、〇	一一、〇	一〇八九、六三七	2 6
普無橋	混凝土拱橋	北豐島王子	府縣道第六號 東京川口線	石神井川	二七、四	一〇、〇	一四四、〇六五	3 5
中川新橋	鋼桁橋	南葛飾龜戸 小松川	放射線十五號	中川	三二、〇	一一、〇	一六九、二八九	3 6
計								
合計					一、八四九、〇四〇		九、八一、四七五	

五 施行中及着手すべきなる橋梁表

(昭和六年十二月調)

△は施工中の橋梁

橋名	種別	郡	町村	路線名	河川名	延長	幅員	工費豫算	施行年度
△戸田橋	鋼結構又桁橋	北豐島	志村	九號國道	川	五二八、八 _米	一一、〇 _米	六六四、九二三	一五—七
△曲金橋	鋼桁橋	南葛飾	龜戶	淺草、松戸線	川	一八七、〇	七、五	二〇三、二六六	三—七
△中川橋	鋼桁橋	同	新龜宿	六號國道	川	一三一、〇	七、五	一九九、五六三	三—七
△小臺橋	鋼桁橋	北豐島	北尾久、鳩ヶ谷線	荒川	川	一三二、〇	七、五	二二一、四三五	三—七
△丸子橋	鋼結構及混凝土拱橋	荏原	布原	下大崎、川和線	川	三九四、五	一一、〇	五三四、〇〇〇	三—八
△棚澤橋	鋼拱橋	西多摩	古里	青梅甲府線	多摩川支流	五五、〇	七、五	四四、八七〇	六—六
△萩原橋	鐵筋混凝土橋	南多摩	八王子	八王子五日市線	川	一一二、〇	一〇、〇	四三、六五九	六—六
△氷川橋	混凝土拱橋	西多摩	川	青梅甲府線	原川	八二、六	六、三	六〇、〇〇〇	六—七
△矢野口渡	鋼桁橋	南多摩	布城	調布厚木線	川	三八〇、〇	七、五	三九七、五〇〇	七—九
△氷川第一橋	鋼拱橋	西多摩	川	青梅甲府線	川	七六、〇	五、五	三五、〇〇〇	六—七
△氷川第二橋	鋼結構橋	西多摩	川	青梅甲府線	川	六六、〇	五、五	三五、〇〇〇	六—七
△氷川第三橋	鋼拱橋	同	同	同	川	五五、〇	五、五	三〇、〇〇〇	六—七
計						二、四六九、二一六			
都市計畫事業に屬する橋梁									
△進開橋	鋼桁橋	南葛飾	大砂町	一等三類一七號	小名木川	四四、三	二二、〇	一七〇、〇〇〇	三—七

△秋	山橋	鋼桁橋	同	砂町	同	東京運河	三七、六	二二、〇	一三〇、〇〇〇	3 7
△	大崎跨線橋	鋼桁橋	北豐島	塚	一等三類一、二號	神田川	二五、五	二二、〇	八四、〇〇〇	5 5
	吞川橋	鋼桁橋	荏原大	崎	一等三類二〇號	山手線	五八、〇	二二、〇	二六四、〇〇〇	5 7
	目黒橋	鋼桁橋	荏原羽	田	一等三類二三號	吞川	二一、八	二二、〇	七二、〇〇〇	5 7
	目黒新橋	混凝土拱橋	荏原目	黑	一等三類二五號	山手線	三一、八	二二、〇	二一〇、〇〇〇	5 7
	千登世橋	混凝土拱橋	荏原目	黑	同	目黒川	二七、三	二二、〇	一八〇、〇〇〇	4 6
	並木橋	鋼桁橋	北豐島	高	二等一類一號	環狀線	二五、八	一八、〇	七〇、〇〇〇	5 7
	未定	鋼桁橋	豐多摩	瀨	二等二類二一號	瀨谷川	一〇、九	一五、〇	二四、〇〇〇	6 7
	未定	鋼桁橋	荏原大	井	二等二類一九號	立會川	七、三	一五、〇	一六、〇〇〇	6 7
	未定	鋼桁橋	豐多摩	瀨	二等二類二一號	山手線	五二、七	一五、〇	二三二、〇〇〇	3 7
	未定	鋼桁橋	荏原大	千駄ヶ谷	二等二類二二號	瀨谷川	九、一	一五、〇	二〇、〇〇〇	6 7
	未定	鋼桁橋	荏原大	原	放射線一號	立會川	七、五	二五、〇	二八、〇〇〇	6 7
	未定	鋼桁橋	豐多摩	和	放射線五號	舊玉川上水	七、五	二五、〇	四八、〇〇〇	6 11
	未定	鋼桁橋	同	杉	放射線六號	中央線	一五、〇	二五、〇	一一二、〇〇〇	6 11
	未定	鋼桁橋	同	北豐島	放射線一一號	荒川	一二八、〇	一七、〇	三二九、〇〇〇	6 11
	未定	鋼桁橋	南足立	北	放射線一一號	荒川放水路	四三七、〇	一七、〇	一一二四、〇〇〇	6 11
	未定	鋼桁橋	南足立	北	同	荒川放水路	四三七、〇	一七、〇	一一二四、〇〇〇	6 11
	未定	鋼桁橋	南葛飾	新龜	放射線一三號	中川	一三七、〇	一七、〇	三五二、〇〇〇	6 11
	未定	鋼桁橋	同	龜	放射線一四號	中川	八三、〇	一七、〇	二一三、〇〇〇	6 11
	未定	鋼桁橋	同	小松	同	荒川放水路	四六五、〇	一七、〇	一一九五、〇〇〇	6 11
	未定	鋼桁橋	同	小松	同	荒川放水路	四六五、〇	一七、〇	一一九五、〇〇〇	6 11

紹介

未定	同	奥戸	同	新中川	一一〇、〇	一七、〇	二八三、〇〇〇	6	11	
小松川橋	鋼結構及桁	同	小松川	放射線一五號	荒川放水路	五〇〇、〇	一八、〇	一三五、〇〇〇	6	8
小松川小橋	鋼桁橋	南葛飾	松江	放射線一五號	新中川	一二〇、〇	一八、〇	三二四、〇〇〇	6	8
未定	豐多摩	澁谷	環狀線六號	町道		七、五	二二、〇	七二、〇〇〇	6	11
未定	同	代々幡	同	舊玉川上水		七、五	二二、〇	二二、〇〇〇	6	11
未定	同	淀橋	同	市水道		九、〇	二二、〇	二七、五〇〇	6	11
未定	同	中野	同	舊神田上水		九、〇	二二、〇	二七、五〇〇	6	11
未定	同	北豐島	同	中央線		一一、〇	二二、〇	一三二、〇〇〇	6	11
未定	北豐島	落合	同	舊神田上水		一一、〇	二二、〇	三三、〇〇〇	6	11
未定	南足立	隅田	同	綾瀨川		七、四	一五、〇	一六八、〇〇〇	6	11
未定	荏原	大井	補助線一號	東海道線		二七、〇	一五、〇	二三二、五〇〇	6	11
未定	同	同	補助線三號	同		二七、〇	一一、〇	一一一、〇〇〇	6	11
未定	豐多摩	中野	補助線三四號	舊神田上水		九、〇	一五、〇	二〇、〇〇〇	6	11
未定	同	中野	補助線四二號	神田川		二五、五	一一、〇	二四、七五〇	6	11
未定	荏原	戸塚	補助線四三號	舊神田上水		一五、〇	一五、〇	三二、〇〇〇	6	11
未定	北豐島	板橋	補助線五九號	山手線		二七、〇	一八、〇	五九、四〇〇	6	11
△尾久橋	鋼桁橋	北豐島	補助線六五號	荒川		一三一、七	一〇、〇	二九〇、〇〇〇	3	7
西新井橋		南足立	補助線六六號	荒川放水路		四四〇、〇	一〇、〇	六六〇、〇〇〇	7	11

未定	堀切橋	北足立	南千住	補助線七三號	荒川	一四六、〇	一〇、〇	二二一、〇〇〇	7	11
未定	堀切小橋	北足立	南綾瀨	同	荒川放水路	四四〇、〇	一一、〇	七九二、〇〇〇	7	11
未定	南葛飾	南足立	南綾瀨	同	綾瀨川	五〇、〇	一一、〇	九〇、〇〇〇	7	11
△未定	南葛飾	南葛飾	戸田	補助線八二號	中川	一一〇、〇	一一、〇	二〇〇、〇〇〇	7	11
未定	同	同	同	補助線八六號	中川	一二二、四	一一、〇	二六五、〇〇〇	5	7
未定	同	同	同	補助線八七號	東武線	一〇、〇	一一、〇	二五、〇〇〇	7	11
未定	同	同	同	補助線九一號	新川	二七、〇	一八、〇	七四、〇〇〇	7	11
未定	同	同	同	補助線一〇六號	北十間川	二〇、〇	一一、〇	四五、〇〇〇	7	11
未定	同	同	同	補助線一〇七號	東武線	一〇、〇	一一、〇	二四、七五〇	7	11
未定	同	同	同	放射線五號	省線	一二三、〇	二五、〇	五二五、〇〇〇	7	14
未定	同	同	同	放射線一三號	荒川放水路	四五〇、〇	二五、〇	一、八五〇、〇〇〇	7	14
未定	同	同	同	補助線九七號	山手線	五八、〇	一一、〇	一一〇、〇〇〇	7	14
合計								一一、九七三、四〇〇		
								一五、四四二、六一六		